

令和5年度 社会科 シラバス

教科	公民	科目	倫理	単位数	2	年次/コース	高校2年生/特進文系
使用教科書	清水書院 高等学校 新倫理						
副教材など	教科書準拠 ワークノート						

1. 学習の到達目標

●科目について

- ・人間としての在り方生き方についての見方・考え方を働かせる。
- ・現代の諸課題を追求したり解決に向けて構想したりする活動を行う。
- ・広い視野に立ち、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。

●コンピテンシーについて

- ・歴史的背景に留意しながら社会的な見方を用いて資料を読解する力を向上させ、情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。
- ・歴史的・社会的な見方を用いて様々な概念を多面的・多角的に考察し、課題解決をめざした構想ができるようになる。

2. 学習方法について

●授業中において

1. 思想や宗教が生まれた時代背景を理解する
 2. 人物名・思想のキーワード・著書は正確に押さえる
 3. 自分に役立つ思想や考え方はないかな、という興味関心を持って学習する
 4. 日本史と世界史の文化史と思想史とリンクさせながら学習すると効果的である
 5. 5W1H「いつ(When)、どこで(Where)、だれが(Who)、なにを(What)、なぜ(Why)、どのように(How)」という6つの要素を倫理の学習でも意識して学習を進めると効果的である
- いつ、どこで、だれが、なにを、なぜ、どのようにして思想や宗教を展開していったのかを理解していく

●家庭学習において

1. 教科書準拠のワークを用いて、人物名やキーワーを確認しておく
2. 復習として、共通テストの過去問を解く・用語集を用いて理解を深める

3. 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	①：知識・技能	②：思考・判断・表現	③：主体的に学習に取り組む態度
<p>観点 の趣 旨</p>	<p>★古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解している。</p> <p>★諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめることができる。</p> <p><input type="checkbox"/>基本事項を正確に丁寧に理解し、押さえることができている</p> <p><input type="checkbox"/>教師から与えられた課題に加え、必要に応じて適宜自ら課題に取り組むことができる</p>	<p>★自立した人間として、他者と共によりよく生きる自己の生き方について、より深く思索することができる。</p> <p>★現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、理論的に思考し、説明したり対話したりすることができる。</p> <p><input type="checkbox"/>課題を解決するために、必要な教科等の知識・技能が実生活の事象・現象・場面とどのように関連しているかを理解している</p> <p><input type="checkbox"/>他者に自分なりの理解度を基に、説明することができる</p>	<p>★人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究し、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしている。</p> <p>★多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深めている。</p> <p><input type="checkbox"/>与えられた課題が完璧にこなせている</p> <p><input type="checkbox"/>自ら積極的に考察できる</p> <p><input type="checkbox"/>他者と議論しながら、考察を深めることができる</p> <p><input type="checkbox"/>必要な情報を集め、活用することができる</p> <p><input type="checkbox"/>自分なりの答えを根拠とともに示すことができる</p>
<p>評価 方法</p>	<p><input type="checkbox"/>確認テスト</p> <p><input type="checkbox"/>リフレクション</p>	<p><input type="checkbox"/>思考問題の課題</p> <p><input type="checkbox"/>パフォーマンス課題</p>	<p><input type="checkbox"/>自分が興味のあることを学習した内容から選んで調べたりまとめたりする課題(レポートなど)</p> <p><input type="checkbox"/>グループワークやペアワークへの取り組み</p>
<p>上に示す観点・評価方法に基づいて、各観点で評価し、学期末に当該学期の観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。また、学年末に年度を通しての観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。</p>			

4. 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点			単元（題材）の 評価規準	評価方法
			①	②	③		
1	第1編 現代を生きる自己の課題	序章 人間とは何か 第1章 個性的な主体としての自己 ①心の機能と個性 ②パーソナリティの形成と「私」 第2章 心と行動をめぐる探究 ①人間の心を活動を支える心 ②認知のしくみ ③生涯にわたる発達	○	○	○	★欲求や感情、認知、発達に着目して、青年期の課題を踏まえ豊かな自己形成に向けて、他者と共によりよく生きる自己の生き方について理解し、自分事としてとらえる ★古代ギリシアの思想の知見を手掛かりに幸福・愛・徳に着目して、人間としての在り方生き方について考え多面的・多角的に考える ★ユダヤ教・キリスト教・イスラム教の一神教が神と人間の関係をどのように捉えたか、相互の比較を通して理解を深め、宗教の本質的なあり方を考察する ★仏教の人間観や人生観を理解し、生の苦悩とその克服といった課題を、自己の課題と重ね合わせて考察する ★孔子や孟子の言行や宋学の思想の理解を通して、人間についての見方や、望ましい人間関係の在り方について自己の課題と結び付けて思索を深める	3. 学習評価(評価規準と評価方法)に示した通り
	第2編 人間として自覚	第1章 哲学の始源：ギリシア思想 ①神話から哲学へ 自然哲学者たち ②知と徳をめぐる問い ソクラテス ③理想主義的ありかた プラトン ④現実主義的ありかた アリストテレス ⑤幸福をめぐる問い ヘレニズムの思想 第2章 唯一神の宗教：キリスト教・イスラム教 第1節 愛の教え キリスト教 ①ユダヤ教 ②イエスの思想 ③世界宗教への展開 第2節 戒律と平等の教え イスラム教 第3章 東洋思想の源流：仏教・儒教 第1節 智慧と慈悲の教え 仏教 ①バラモン教 ②仏陀の思想 ③仏教とその後の展開 第2節 共同体の理想 儒教・老荘思想 ①儒家の教え ②儒教の展開 ③道家の思想 第4章 芸術と倫理					

2	第4編 国 際 社 会 に 生 き る 日 本 人 と し て の 自 覚 第3編 現 代 を か た ち づ く る 倫 理	第1章 日本の風土の精神文化 第1節 日本人の人間観・自然観・宗教観 ①風土と日本人の生活 ②日本における神の観念 ③神と仏の出会い 第2節 日本人の仏教受容 ①古代仏教の思想 ②鎌倉仏教の思想 第3節 近世社会の思想 ①儒教の伝来と朱子学 ②陽明学 ③古学 ④国学と日本文化 ⑤近世庶民の思想 ⑥近代的国家への道 第2章 日本の近代化と人々の生き方 第1節 西洋近代精神の摂取 ①啓蒙思想家の活動 ②国家と個人の衝突 第2節 近代的自我の自覚 ①近代的自我の成立と個人主義 ②社会改革の思想 第3節 主体的な生き方と価値観の模索 ①近代日本の哲学 ②近代日本の思想傾向への反省 ③現代日本と私たちの課題 第1章 近代の成立 第2章 世界と人間をめぐる探究 第1節 人間の尊厳 ①ルネサンスとヒューマニズム ②宗教改革と人間の内面 ③人間の偉大と限界 第2節 真理の認識 経験論と合理論 ①近代科学の思考法 ②事実と経験の尊重 ベーコン ③理性の光 デカルト	○	○	○	★日本人の人間観、自然観、宗教観の特質を、日本人の心情や考え方と風土との関わり、また日本的な美意識や自然との関わりに着目して、日本人としての自己意識と結び付けて理解し、現代日本へのつながりを考える ★外来思想である儒教を、江戸時代における儒学諸派の形成を通して、それらが日本人の思想形成にどのように影響を及ぼしたかを理解を深める ★西洋文化を摂取し、新しい文化や思想を形成した思想家たちを通して、現代を生きる日本人の思想形成にどのような影響を与えているかを自分なりに考える ★人間の尊厳を論じたルネサンス・宗教改革を通して生まれた思想を通して、幸福・愛・徳に着目し、人生への問いや人間の存在や価値について、自己の課題と結び付けて考察する ★経験論と合理論を通して、真理や存在に着目して、人間の認識と経験を考察する	
---	--	--	---	---	---	--	--

<p>3</p> <p>第5編 現代 にお ける 諸 課 題 の 探 究</p>	<p>第3節 民主主義と倫理</p> <p>①社会契約説と啓蒙思想</p> <p>②人格の尊重と自由 カント</p> <p>③自己実現と自由 ヘーゲル</p> <p>④幸福と功利</p> <p>⑤創造的知性と幸福</p> <p>第4節 現代社会と個人</p> <p>①資本主義社会への批判</p> <p>②人間存在の地平 実存主義</p> <p>③世界と存在そのものへ 現象学</p> <p>④公共性と正義</p> <p>⑤社会参加と他者への奉仕</p> <p>第5節 近代の世界観・人間観の問い直し</p> <p>①理性主義への反省</p> <p>②言語論的転回</p> <p>③科学観の転換</p> <p>第1章 自然や科学技術をめぐる諸課題</p> <p>①環境と倫理</p> <p>②生命と倫理</p> <p>③科学技術の発展とその課題</p> <p>第2章 社会や文化に関わる諸課題</p> <p>①文化や宗教の多様性と倫理</p> <p>②国際平和と人類の福祉</p>	<p>○</p>	<p>○</p>	<p>○</p>	<p>★民主社会と人間の在り方や人間の尊厳、自己実現と幸福を論じた近代の諸思想を通して、善、正義、義務に着目して、自己の価値観を確立するとともに他者の価値観を尊重することの大切さを理解し、社会の在り方と人間としての在り方生き方について自分の考えを持つ</p> <p>★民主社会における人間の在り方を論じた現代の諸思想を通して、善、正義、義務などに着目し、社会の在り方と人間としての在り方生き方について自分の考えを持つ</p> <p>★先哲を含む他者との対話を通して、生命、自然、科学技術などと人間との関わりについて倫理的課題を見だし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述する</p> <p>★先哲を含む他者との対話を通して、福祉、文化と宗教、平和などについて倫理的課題を見だし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述する</p>	
--	--	----------	----------	----------	---	--

